

令和7年度 苫小牧市こども国際交流事業 — 活動報告書 —

日程 2025年7月29日～8月3日
行先 シンガポール・マレーシア

1、目次

令和7年度 苫小牧市こども国際交流事業 活動報告書

1.	目次	P.01
2.	シンガポール派遣事業のテーマ	P.02
3.	参加者名簿・シンガポール現地研修組織図	P.03
4.	事業スケジュールと学習内容	P.04
5.	事前研修	P.05
	第1回事前研修	
	第2回事前研修	
	第3回事前研修・金澤市長への決意表明	
6.	現地研修	P.08
	全行程表	
	1日目報告	
	2日目報告	
	3日目報告	
	4日目報告	
	5日目報告	
	・B&Sプログラム1班報告	
	・B&Sプログラム2班報告	
	・B&Sプログラム3班報告	
	6日目報告	
7.	事後研修	P.24
	第1回事後研修	
	第2回事後研修・金澤市長への研修報告	
	第3回事後研修・提言発表会	
	参加者の活動報告書	P.27
8.	目次	
	1 「統合型リゾートの導入と魅力あるまちづくり」 K.K	
	2 「シンガポールから学ぶ苫小牧の街づくり」 S.N	
	3 「今回の研修で学んだこと」 T.S	
	4 「ゼロゴミと観光」 W.E	
	5 「ウォークアブルな緑化政策の進んだ、工夫の詰まった国」 K.Y	
	6 「シンガポールの「グリーンプラン2030」とSDGs推進に向けた 苫小牧市への応用とは」 W.K	
	7 「シンガポールの多文化共生から学んだこと」 S.S	
	8 「産業と環境が持続可能な都市デザイン」 U.M	
	9 「シンガポールの建造物に惹かれる理由」 E.Y	
	10 「多文化共生と水」 K.S	
	11 「シンガポールから学んだこと」 T.H	
	12 「環境と観光・街づくりを守るために ～苫小牧に生かす～」 H.H	

2、シンガポール派遣事業のテーマ

テーマ	派遣先シンガポールの先進性と苫小牧市との親和性
目的	先進地を肌で感じ国際的な視野を学び 持続的に成長可能な苫小牧市のまちづくりを担う将来の人材育成

苫小牧市の目指すべき方向性

クリエイティブシティ苫小牧×次世代産業の展開

目指すべき目標

産業と環境が共生する持続可能な都市の実現

都市再生のキーワード3つのW

苫小牧都市再生キーワード3つのW(Walk・Water・Work)から 考えるシンガポール派遣事業4つのポイント

POINT ①

ウォーカブルな街づくり

Work Walk

- ・歩きたくなるストリート整備
- ・ワーケーション・リモートワーク起点
- ・多機能コミュニティ拠点
- ・食と文化あふれる街

POINT ③

次世代産業の展開

Work Water

- ・新産業の振興
- ・環境、エネルギー産業への取組
- ・MICE誘致への取組
- ・生物多様性への取組
- ・Maasによる公共交通ネットワークの維持・強化

POINT ②

ウォーターフロントの魅力発信

Work Walk Water

- ・漁港エリアにおける新しい空間
- ・西港北埠頭エリアの新しい空間作り
- ・苫小牧港長期構想

POINT ④

人材育成・多文化共生

Work

- ・国際交流促進による多文化共生の実現
- ・人材活用・育成による次世代産業の創出

3、参加者一覧・現地研修組織図

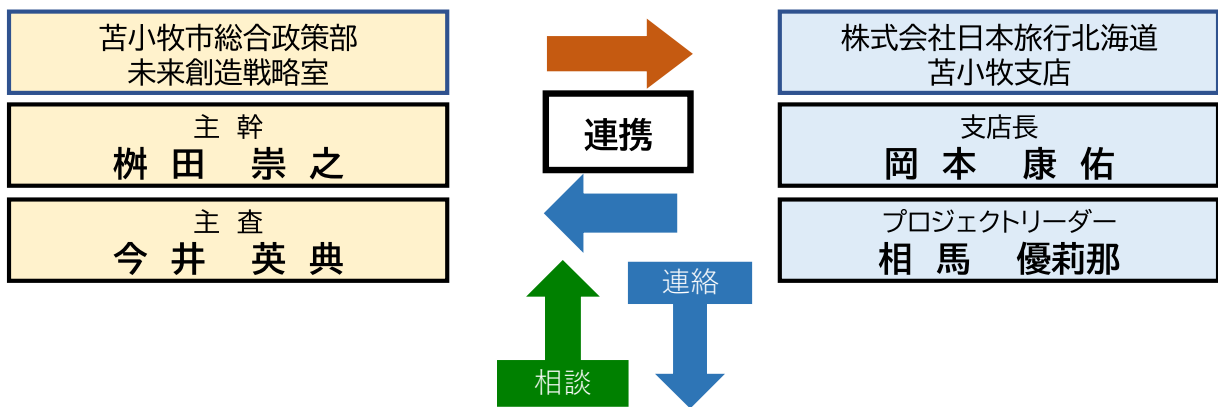
◆参加生徒氏名一覧

氏名	性別	学年
K・K	女	高校3年
S・N	女	高校3年
T・S	男	高校3年
W・E	女	高校2年
K・Y	女	高校2年
W・K	男	高校2年
S・S	男	高校1年
U・M	女	中学3年
E・Y	男	中学3年
K・S	男	中学3年
T・H	女	中学2年
H・H	男	中学1年

◆関係スタッフ一覧

氏名	所属	役割
梶田 崇之	苫小牧市総合政策部未来創造戦略室	事業総括責任者
今井 英典	苫小牧市総合政策部未来創造戦略室	事業運営
上田 怜奈	苫小牧市総合政策部未来創造戦略室	事業運営
岡本 康佑	(株)日本旅行北海道 苫小牧支店	事業実施責任者
相馬 優莉那	(株)日本旅行北海道 苫小牧支店	プロジェクトリーダー
林 直次郎	(株)日本旅行北海道 苫小牧支店	プロジェクトサポート
山口 勝次	(株)トートー事務機	運営サポート

シンガポール現地研修 組織図



1班	
◆	K・K
	K・Y
	S・S
	K・S

2班	
◆	T・S
	W・E
	T・H
	H・H

3班	
	S・N
◆	W・K
	U・M
	E・Y

4、事業スケジュールと学習内容

◆事業スケジュール

日程	会場	研修名	研修内容
6月21日 9:00~12:30	ハーバーFビル 苫小牧港管理組合	第1回事前研修	① 事業概要説明
			② 自己紹介
			③ 事前事後、派遣研修について
			④ 苫小牧市都市再生コンセプトプランについて
			⑤ 苫小牧港について
			⑥ 保護者説明会
			⑦ まとめ・次回研修案内
7月7日 16:30~18:30	COCOTOMA	第2回事前研修	① 第1回事前研修の振り返り
			② しおりの説明
			③ 講話『このまちは好都合に未完成』 桐木俊平様
			④ グループワーク
			⑤ 金澤市長への決意表明について
			⑥ 次回に向けた取組みと課題連絡
7月19日 9:30~12:00 12:40~16:00	苫小牧市役所 第2応接室	市長への決意表明式	参加者から金澤市長への決意表明を全員が発表
	苫小牧市役所 第2応接室	第3回事前研修	① 第2回事前研修の振り返り
			② B&Sプログラムのグループワーク
			③ しおりの最終読み合わせ
			④ 出発に向けた諸連絡
7月29日~8月3日 シンガポール・マレーシア現地研修			
8月9日 9:00~12:00	COCOTOMA	第1回事後研修	① 現地研修の振り返り
			② 研修レポート報告
			③ 研修終了後の感想発表
			④ 苫小牧市への提言グループワーク
8月23日 9:00~11:30 12:30~16:00	苫小牧市役所 第2応接室	金澤市長への報告会	参加者から金澤市長への研修報告を全員が発表
		第2回事後研修	① 第1回事後研修の振り返り
			② 苫小牧市への提言グループワーク
10月5日 14:00~18:00	COCOTOMA	第3回事後研修 提言発表会	① 現地研修後の振り返り
			② 提言発表会

5、事前研修

第1回事前研修 【実施日：6月21日／会場：ハーバーFビル】

1. 事業概要説明

2. 参加者自己紹介・現地研修日程説明

3. 講義① / 苫小牧市総合政策部未来創造戦略室 主査 今井 英典 様 「苫小牧市都市再生コンセプトプランについて」

4. 講義① / 苫小牧港管理組合 港湾政策室政策推進課 振興係 係長 川島 徹 様 「身近にある苫小牧港って」

5. 現地研修の心構えと注意点の説明

6. 保護者説明会



▲事業概要説明



▲講義①今井様より



▲自己紹介



▲自己紹介

5、事前研修

第2回事前研修【実施日：7月7日／会場：COCOTOMA】

1. 第1回事前研修の振り返り
2. しおりの説明・読み合わせ
3. 講義① / 室蘭工業大学大学院 環境創生工学科 桐木峻平 様
「このまちは好都合に未完成」
4. グループワーク
5. 金澤市長への決意表明について
6. 次回に向けた取組みと課題連絡



▲講義①桐木様より



▲グループワーク



▲グループワーク



▲グループワーク

5、事前研修

第3回事前研修【実施日：7月19日／会場：苫小牧市役所第二応接室】

1. 第2回事前研修の振り返り
2. 金澤市長への決意表明式
3. B&Sプログラムについて グループワーク・発表
4. 現地研修に向けた詳細説明



▲金澤市長への決意表明式



▲B & Sプログラムグループワーク

6.現地研修 - 全行程表

日次	月日	地名	現地時刻	交通機関	日 程	宿泊地	朝食	昼食	夕食
1	7月29日 (火)	新千歳空港 羽田空港 チャンギ空港	6:45 8:00発 9:35着 11:25発 17:30着 19:00 19:40	JAL500 JAL37	新千歳空港 2階国内線 出発ロビー集合 国内線にて、空路羽田空港へ 到着後、国際線ターミナルへ 出国手続き・通関後、国際線でシンガポールへ 到着後、入国審査・通関 専用車でホテルへ ホテル到着、ホテルにて夕食	シンガポール	×	機内食	ホテル
2	7月30日 (水)	シンガポール		専用車 専用車	専用車でシンガポール観光 【ウォーカブルな街並み・多機能コミュニティ・食と文化あふれる街】 マーライオンパークから徒歩でエスプラネードシアター、 ラウバサホーカーセンターで昼食 【ウォーカブルな街並み・ウォータフロントの魅力発信・次世代産業の展開】 統合型リゾート マリーナベイサンズ 【ウォーカブルな街並み・多文化共生】 アラブストリート（サルタンモスクなど）、チャイナタウン、リトルインディア 早目のホテル到着でゆっくりと疲れを癒して下さい。	シンガポール	ホテル	シンガポール	シンガポール
3	7月31日 (木)	ジョホールバル シンガポール		専用車	【多文化共生・次世代産業の展開】 マレーシアジョホールバル観光 ジョホール水道、アブカール回教寺院、グラス寺院、 マレー文化村・ロティチャナイ作り体験・パティック染め体験 昼食はビュッフェ形式のマレー料理 【ウォータフロントの魅力発信・次世代産業の展開】 イーストコーストパーク（地元人気ビーチエリアの公園） 【次世代産業の展開・食と文化あふれる街】 ナイトサファリ観光、夕食はビュッフェ形式でお召し上がり	シンガポール	ホテル	ジョホールバル	シンガポール
4	8月1日 (金)	セントーサ島		専用車	【次世代産業の展開・多文化共生・IR先進地関連】 セントーサ島観光・視察 シンガポールケーブルカーにてセントーサ島へ 多文化共生を学ぶイメージオブシンガポール 環境とSDGs シアークアarium見学 昼食後、ユニバーサルスタジオシンガポール見学 夕食後、ウイングスオブタイム鑑賞	セントーサ島	ホテル	セントーサ島	セントーサ島
5	8月2日 (土)	シンガポール チャンギ空港	22:00	専用車	【ウォーカブルな街並み・次世代産業の展開・多文化共生】 水資源活用を学ぶマリーナバレー 多文化共生や新産業の展開を学ぶシンガポールシティギャラリー 【ウォーカブルな街並み・人材育成・多文化共生】 現地の学生と一緒に回るB&S（同世代交流）プログラム ※生徒4名1組に1名の現地大学生がエスコート 夕食はクラークキーにて海鮮料理 夕食後、リパークルーズで夜景観賞 チャンギ国際空港到着、搭乗手続き・出国審査	機内泊	ホテル	B & S 各自	シンガポール
6	8月3日 (日)	チャンギ空港 羽田空港 新千歳空港	1:55発 9:50着 11:20発 13:00着	JAL38 JAL513	国際線にて、空路羽田空港へ。 到着後、入国審査、通関後、国内線ターミナルへ 国内線にて新千歳空港へ 到着、解散		機内食	×	×

【ご宿泊ホテル】

宿泊日	泊数	宿泊地	ホテル名	備 考
7月29日・30日・31日	3	シンガポール	ヨークホテル	学生12名はツイン、大人2名と添乗員はシングル
8月1日	1	セントーサ島	ヴィレッジホテルセントーサ	学生12名はツイン、大人2名と添乗員はシングル

6.現地研修 - 1日目

第1日目行程表【7月29日(火)】 宿泊先:ヨークホテル・シンガポール

時間	行程	注意事項
6:45	新千歳空港 国内線2階 集合	<ul style="list-style-type: none"> 出欠を確認(リーダー) パスポートの確認 班ごとに整列し、点呼(リーダー)
6:50	新千歳空港で出発式 日程説明・諸連絡	<ul style="list-style-type: none"> 出発に向けた決意表明発表 搭乗手続きの案内 e-チケット(往復)、荷物用タグ、保険の証書配布 説明後、荷物再確認 ※下記注意事項 手荷物は一つに(パスポート・搭乗券・しおり・貴重品、黒ペン等) 機内持込:財布、スマートフォン、カメラ、モバイルバッテリー 機内預け:刃物類、スプレー等液体物 ※飲み物は国内線は可です。 ※預けた荷物はシンガポールまで受け取れません。
	搭乗手続き	<ul style="list-style-type: none"> 一人ずつチェックインカウンターへ移動し、搭乗手続き荷物預け 荷物預けが終わったら班ごとに整列し、点呼(リーダー)⇒全員揃って保安検査へ
	保安検査 搭乗ゲート付近で一時解散	<ul style="list-style-type: none"> 金属類はカバン内に入れるか検査場のトレイに入れる 1人で行動せずに必ず2人以上で行動する事
7:30	搭乗ゲート集合	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに整列し、点呼(リーダー) 機内・到着後の案内
8:00	新千歳空港出発 日本航空 JL500便	<ul style="list-style-type: none"> 搭乗後、座席を確認して着席 機内でのマナーを厳守
9:35	羽田空港 国内線到着 循環バスで国際線ターミナルへ	<ul style="list-style-type: none"> 機内の忘れ物の確認して降りる事 飛行機降りたところで集合・班ごとに整列し、点呼(リーダー) 班でまとまって乗車
	羽田空港国際線 到着 保安検査・出国審査	<ul style="list-style-type: none"> 到着後 班ごとに整列し、点呼(リーダー) 諸連絡 保安検査前にペットボトルは捨てる。(ごみ箱あり) 1人で行動せずに必ず2人以上で行動する事
	出国審査後 搭乗ゲート付近で一時解散	
10:55	搭乗ゲート集合	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに整列し、点呼(リーダー) 機内・到着後の案内
11:25	羽田空港国際線 出発 日本航空 JL037便	<ul style="list-style-type: none"> 搭乗後、座席を確認して着席 ※スマホは電源を切るか機内モードにして下さい。 ※機内は空調が効いている為、結構寒いです。 ※昼食は機内食です。しっかり食べて活力を！！
17:30	シンガポールチャンギ国際空港到着 入国審査 荷物受取 税関 到着口	<ul style="list-style-type: none"> 機内の忘れ物の確認して慌てず降りて下さい。 飛行機降りたところで班ごとに整列し、点呼(リーダー) 入国審査 パスポートを持って一人ずつ受けます。 荷物を受け取ってターンテーブル付近に集合 班ごとに整列し、点呼(リーダー) 申告なしのレーンを通過 ※税関を通過すると海外です。身の回りには充分注意しましょう。 現地ガイドさんと合流 挨拶 時計確認(※時差-1時間) スマホ等の通信環境確認 ※持参した参加者のみ
19:00	バス乗車・チャンギ国際空港出発	<ul style="list-style-type: none"> 乗車後、点呼(リーダー) 車内で両替(1人5000円分のみ) 諸注意 お水1本サービス
19:30	ホテル到着 消灯・就寝	<ul style="list-style-type: none"> ホテル内レストランにて夕食。夕食後、全員でコンビニへ買い物 非常経路、部屋の破損等のチェック(何かあればスタッフにグループLINEで報告) ◆以降は一切外出禁止です。 翌日の研修の備え、ゆっくり休みましょう

6.現地研修 – 報告(1日目)

初日は緊張と興奮の中、新千歳空港に集合し羽田空港で国際線に乗り継いでシンガポールチャンギ空港へ向け出発。慣れない長時間フライトでしたが全員元気に到着し、入国審査も難なく通過。無事に現地ガイドのMさんと合流しました。ホテルに着くとほっとした様子♪明日からの研修に備えましょう。



▲いよいよ出発



▲羽田空港での様子



▲入国審査の様子



▲現地ガイドへご挨拶とお土産贈呈



▲ホテルに到着！

6.現地研修 – 2日目

第2日目行程表【7月30日(水)】 宿泊先:ヨークホテル シンガポール

時間	行程	注意事項
	起床・出発準備	・各自で部屋の整頓【服装:ポロシャツ 水色】 ・食後すぐ出られるように準備
7:00	朝食(場所:1F White Rose Cafe) 【ブッフエスタイル】	・ロビーに集合 班ごと整列し、点呼(リーダー) ・体調不良の場合はスタッフに報告 ・一般客もいるため、空いている席で部屋ごと、食事をとる
8:20	1階ロビー集合	・トイレを済ませ、研修に必要な荷物を持ってロビーに集合 ・部屋に忘れ物がないことを確認 ・ パスポートを必ず持参する事 ・大きな荷物はお部屋に置いて良いが貴重品は必ず持つこと ・ルームキーを提出
8:30	バス乗車・ホテル出発	・乗車後に点呼(リーダー) ・お水1本サービス
9:00	マーライオンパーク	・降車後、班ごと整列し、点呼(リーダー) ・見学は必ず班行動 ・エスプラネードシアターまでは徒歩移動
10:00	エスプラネードシアター	・班行動で見学
11:30	ラウパサホーカーセンター(昼食) メニュー:それぞれで注文	・席を取ってから班ごと食事を選ぶ ※全員同じものじゃなくて大丈夫です。 ・飲み物は個人会計です。
13:00	マリーナベイサンズ	・降車後、班ごと整列し、点呼(リーダー) ・班行動で見学
14:00	チャイナタウン リトルインディア アラブストリート	・降車後、班ごと整列し、点呼(リーダー) ・班行動で見学
17:30	チャーターボックス(夕食) メニュー:チキンライス	・決められた席に着席 ・飲み物は個人会計です。
19:00	オーチャードロード経由してホテルへ 消灯・就寝	・ホテル到着後、コンビニで買い物 ・到着後ロビーで1日の振り返り ・カギを受取、部屋に移動 ◆以降は一切外出禁止です。

ウォーカブルな街づくりを体験!!
マーライオンパーク-エスプラネードシアター

- ・シンガポールの歩きたくなるストリート整備を体験!!
- ・ドリアンに似たユニークな多機能コミュニティ拠点
エスプラネードシアターオンザベイ

ウォーターフロントの魅力発信 **Work** **Walk** **Water**

ウォーカブルな街づくり **Work** **Walk**

世界無形遺産!! ホーカーセンター
食文化と多文化共生を知る!!

- ・老舗ラウパサホーカーセンターで食と文化あふれる街を体感
- ・多文化共生の象徴。シンガポール名物のチキンライスはもちろん
インド・中国・タイ・日本食など各国の料理が勢ぞろい

ウォーカブルな街づくり **Work** **Walk**

人材育成・多文化共生 **Work**

マリーナベイサンズで統合型リゾート
(IR)がもたらす効果を学ぶ!!

- ・ホテル・レストラン・ショッピングモールなどの多機能コミュニティ拠点
- ・ベイサイドエリアを利用した港湾エリアの新しい空間作り
- ・国際会議室などのMICE誘致への取組を知る

ウォーターフロントの魅力発信 **Work** **Walk** **Water**

ウォーカブルな街づくり **Work** **Walk**

次世代産業の展開 **Work** **Water**

アジアのメトロポリスで
多文化共生を学ぶ!!

- ・多民族国家シンガポールで互いの文化や 宗教を尊重しあいながらの暮らしを知り 多文化共生を学ぶ

ウォーカブルな街づくり **Work** **Walk**

人材育成・多文化共生 **Work**

6.現地研修 – 報告(2日目)

長距離移動の疲れを癒し、ホテルで朝食を食べてから元気に出発。ウォーカブルな街づくりを学びにマーライオンパークからエスプラネードシアターを徒歩移動で見学し、世界無形遺産のホーカーセンターで多文化共生と食文化を体験。そして、シンガポールの新たなランドマークでもあるマリーナベイサンズでは統合型リゾートがもたらす影響を体感しました。暑さが増す中、イーストコーストパークで市民の憩いの場所を体感し、リトルインディア・アラブストリート・チャイナタウンでは他民族共生をどのように実現しているのか肌で感じました。夕食はシンガポール名物のチキンライス。苦小牧との違いを感じ、実りある研修となりました。



▲研修スタート



▲マーライオンパークにて



▲ホーカーセンターでの昼食



▲オフィス街をバックに記念撮影



▲夕食のチキンライス

6.現地研修 – 3日目

第3日目行程表【7月31日(木)】 宿泊先:ヨークホテル シンガポール

時間	行程	注意事項
	起床・出発準備	<ul style="list-style-type: none"> 各自で部屋の整頓 【服装:ポロシャツ ピンク】 宗教上(イスラム教)膝が見える服装(半ズボン・スカート)は避けてください。 食後すぐ出られるように準備
7:00	朝食(場所:1F White Rose Cafe) 【ブッフエスタイル】	<ul style="list-style-type: none"> ロビーに集合 班ごと整列し、点呼(リーダー) 体調不良の場合はスタッフに報告 一般客もいるため、空いている席で部屋ごと、食事をとる
8:20	1階ロビー集合	<ul style="list-style-type: none"> トイレを済ませ、研修に必要な荷物を持ってロビーに集合 部屋に忘れ物がないことを確認 パスポートを必ず持参する事 大きな荷物はお部屋に置いて良いが貴重品は必ず持つこと ルームキーを提出
8:30	バス乗車・ホテル出発	<ul style="list-style-type: none"> 乗車後に点呼(リーダー) お水1本サービス
	バスでマレーシア国境へ	<ul style="list-style-type: none"> 降車後、班ごと整列し、点呼(リーダー) シンガポール出国審査 マレーシア入国審査・通関 ◇事前にスマホ等で電子入国カードを取得する事 ※入国3日前より可
9:30	ジョホールバル観光 アブカール寺院 マレー文化村 ロティチャナイ作り体験 パティック染め体験 アルルミグ ラジャ マリアマン デバスザナン寺院	<ul style="list-style-type: none"> 降車後、班ごと整列し、点呼(リーダー) 班行動で見学 体験もなるべく班行動で *ジョホールバルの観光は状況により入れ替えの可能性あり
12:00	Double Tree(昼食) 【マレー料理 ブッフエスタイル】	決められた席に着席
	バスでシンガポール国境へ	<ul style="list-style-type: none"> 降車後、班ごと整列し、点呼(リーダー) マレーシア出国審査 シンガポール入国審査・通関
15:00	イーストコーストパーク	<ul style="list-style-type: none"> 降車後、班ごと整列し、点呼(リーダー) 班行動で見学
18:00	ナイトサファリ The courtyard(夕食)	<ul style="list-style-type: none"> 降車後、班ごと整列し、点呼(リーダー) 決められた席に着席 お買い物タイム! 2人以上で行動すること
19:50	多言語トラムでナイトサファリツアー	<ul style="list-style-type: none"> トイレは必ず済ませておくこと なるべく班でまとまって乗車
21:30	ホテル到着	<ul style="list-style-type: none"> ホテル到着後、コンビニで買い物 到着後ロビーで1日の振り返り カギを受取、部屋へ移動 ◆以降は一切外出禁止です。
	消灯・就寝	なるべく早く就寝し、翌日の研修に備えて下さい。

隣国マレーシア ジョホールバル研修

- シンガポールとマレーシアは橋でつながっており陸路で国境を超える日本では出来ない体験。
- 水資源の無いシンガポールの命とも言えるジョホール水道や隣国との経済的な関係性は多文化共生と次世代産業の展開を学ぶのに最適な場所です。
- マレーシアで物作り体験も実施し食と文化あふれる街も研修いただけます。

ウォーカブルな街づくり Work Walk

人材育成・多文化共生 Work

次世代産業の展開 Work Water

■スラン・アブカール・モスク

スラン・モスクはマレーシア最大のモスクで、2010年に完成した。モスクの建築には、イスラム教の伝統的な建築様式が採用されている。



■マレーシア文化村

マレーシア文化村は、マレーシアの伝統的な文化を体験できる場所です。ここでは、マレーシアの伝統的な音楽、舞踊、工芸品などを体験することができます。



■グラス市街

グラス市街は、マレーシアの伝統的な建築様式が採用されている。ここでは、マレーシアの伝統的な音楽、舞踊、工芸品などを体験することができます。



ジョホールバルは、マレーシアの伝統的な文化を体験できる場所です。ここでは、マレーシアの伝統的な音楽、舞踊、工芸品などを体験することができます。

地元人気!! 憩いの海浜公園イーストコーストパーク

- 遊泳区域、スポーツ施設、レストランや散歩道など歩きやすくなるストリート整備
- 子どもたちがミニゴルフやスケートパークで遊ぶ姿は埠頭エリアの新しい空間作りに繋がります。
- ビーチ沿いにはレストランやカフェ、ホーカーセンターが立ち並び食と文化あふれる街

ウォーターフロントの魅力発信 Work Walk Water

ウォーカブルな街づくり Work Walk



ナイトサファリ体験生態系の保存と生物多様性から環境問題を考える

- 世界初の夜行性動物サファリパークのナイトサファリでは日本語トラムに乗車いただき観光産業と生態系保護・保全を同時に行う事の大切さを学びます。
- 生物多様性に影響を与える気候変動問題にも取り組んでおり、環境、エネルギー産業への取組など次世代産業の展開を学んでいただきます。

ウォーカブルな街づくり Work Walk

次世代産業の展開 Work Water



6.現地研修 – 報告(3日目)

現地研修3日目は隣国マレーシアジョホールバル研修。シンガポールから陸路でたった1時間走ると国境を超える、日本では体験出来ない貴重な経験。国が違う事で文化・生活などの環境が大きく変わる事への驚きがあったようです。現地では各種体験やアラブ系の寺院を見学しました。昼食後はシンガポールへ戻り少し時間が出来たのでシンガポールで唯一の世界遺産「シンガポール植物園」へ。夜はナイトサファリ観光。夜の見学地がある事で観光客をより長く滞在させる手法を学びました。



▲バティック染めの作品



▲寺院内見学



▲昼食バイキング



▲アブカール寺院



▲シンガポール植物園



▲ナイトサファリ

6.現地研修 - 4日目

第4日目行程表【8月1日(金)】 宿泊先:ビレッジホテル セントーサ

時間	行程	注意事項
	起床・出発準備	<ul style="list-style-type: none"> 各自で部屋を片付け【服装:私服】 食後すぐ出られるように準備
7:30	朝食(場所:1F White Rose Cafe) 【ブッフエスタイル】	<ul style="list-style-type: none"> ロビーに集合 班ごと整理し、点呼(リーダー) 体調不良の場合はスタッフに報告 一般客もいるため、空いている席で部屋ごと、食事をとる
8:50	1階ロビー集合	<ul style="list-style-type: none"> トイレを済ませ、全ての荷物を持ってロビーに集合 部屋に忘れ物がないことを確認 ルームキーを返却
9:00	バス乗車・ホテル出発	<ul style="list-style-type: none"> 乗車後に点呼(リーダー) お水1本サービス
	マウントフェーバー ケーブルカーでセントーサ島へ	<ul style="list-style-type: none"> 降車後、班ごと整理し、点呼(リーダー) 乗車
9:30	セントーサ島内見学 イメージオブシンガポール シーアクアリウム	<ul style="list-style-type: none"> 降車後、班ごと整理し、点呼(リーダー) 班行動で見学
12:00	Good Old Days(昼食) 【シンガポール料理】	<ul style="list-style-type: none"> 決められた席に着席 飲み物は個人会計です。
13:30	ユニバーサルスタジオシンガポール	<ul style="list-style-type: none"> 降車後、班ごと整理し、点呼(リーダー) 1dayパスを受取、班行動で見学 夕食は各自【夕食代をお渡します】
18:30	集合	<ul style="list-style-type: none"> 夕食後指定の場所に集合(場所は現地で案内します。)
19:40	ウイングオブタイム鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 班ごと整理し、点呼(リーダー) 指定された場所で見学
20:30	ホテル到着	<ul style="list-style-type: none"> ホテル到着後、コンビニで買い物 到着後ロビーで1日の振り返り 部屋の代表者はルームキーを受け取りお部屋へ移動 非常経路、部屋の破損等のチェック(何かあればスタッフにグループLINEで報告) ◆以降は一切外出禁止です。
	消灯・就寝	<ul style="list-style-type: none"> なるべく早く就寝し、翌日の研修に備えて下さい。

まるごとテーマパーク セントーサ島 統合型リゾートシンガポール発展の象徴

- 統合型リゾートのリゾート・ワールド・セントーサには沢山の アクティビティ・レストランやショップ、そしてホテルが立ち並んでおり。この事業の4つのポイントであるウォーカブルな街づくり・ウォーターフロントの魅力発信・次世代産業の展開・人材育成・多文化共生の全てが含まれております。
- 『イメージオブシンガポール』ではシンガポールの歴史や文化・4つの民族がどのように融合し、今のシンガポールと作ったのか焦点を当て蠟人形と映像で多文化共生を解りやすく学んでいただけます。
- 環境に配慮した世界最大級の水族館『シーアクアリウム』では持続可能な食生活の維持や環境・エネルギー産業への取組を知る事が出来ます。
- シンガポール発展を知り、苦小牧市の目標である『産業と環境が共生する持続可能な都市の実現』を目指すには最適な見学地としてご提案いたします。



ウォーターフロントの魅力発信 Work Walk Water 人材育成・多文化共生 Work

ウォーカブルな街づくり Work Walk 次世代産業の展開 Work Water

ナイトタイムエコノミーを学習 ウィングスオブタイム

- 世界初の海に設置された屋外ステージで3Dプロジェクションマッピング・花火・レーザーが織りなすウォーターフロントの特性を活かした新感覚の近未来ショー。子供からお年寄りまで楽しめる内容はナイトタイムエコノミー(夜間の活動を通じて、地域の魅力・文化を発信)のお手本となります。

ウォーターフロントの魅力発信 Work Walk Water ウォーカブルな街づくり Work Walk



6.現地研修 – 報告(4日目)

シンガポール発展の象徴、統合型リゾートの恩恵であるセントーサ島へ。ケーブルカーで雄大な景色を見ながら移動。島内に着いてからはシンガポールの歴史を蠟人形で展示しているイメージオブシンガポール、シーアクアリウムを見学。午後からはユニバーサルスタジオシンガポールでの研修。世界中の方々が笑顔で訪れている様子を見て統合型リゾートがもたらす恩恵を実感出来たと思います。夜にはセントーサ島で每晚実施されているウイングスオブタイムの鑑賞。海に設置された屋外ステージでプロジェクションマッピング・花火・レーザーがおりなすウォーターフロントの特性を活かした近未来ショーは多くの参加者が驚きと感動を覚え、大いに刺激を受け興奮状態でホテルに戻りました。



▲イメージオブシンガポール



▲ユニバーサルスタジオシンガポール



▲ウイングスオブタイム

6.現地研修 - 5日目

第5日目行程表【8月2日(土)】 宿泊先:機中泊

時間	行程	注意事項
	起床・出発準備	・各自で部屋を片付け【服装:ポロシャツ 黄色】 ・食後すぐ出られるように準備
7:00	朝食(場所:1F Native Kitchen) 【ブッフエスタイル】	・ロビーに集合 班ごと整列し、点呼(リーダー) ・体調不良の場合はスタッフに報告 ・一般客もいるため、空いている席で部屋ごと、食事をとる
8:20	1階ロビー集合	・トイレを済ませ、全ての荷物を持ってロビーに集合 ・部屋に忘れ物がないことを確認 ※パスポートは必ず持つこと ・ルームキーを返却
8:30	バス乗車・ホテル出発	・乗車後に点呼(リーダー) ・お水1本サービス
9:00	マリナーバラージ	・降車後、班ごと整列し、点呼(リーダー) ・班行動で見学
10:30	シンガポール・シティギャラリー	・降車後、班ごと整列し、点呼(リーダー) ・班行動で見学
11:30	B&Sプログラム シンガポールシティギャラリー出発 Red House Clarke Quay集合	・班ごと整列し、点呼(リーダー) ・シンガポールの大学生と合流し出発 ※移動・見学時はぐれないように注意 ・食事は近くのホーカーセンターがお勧めです。 ・集合はRed House Clarke Quay 17時20分時間厳守 です。 ※万が一遅れそうな場合は必ず連絡する事 ※緊急事態はグループLINEで報告する事
17:20	Red House Clarke Quay(集合)	・班ごと整列し、点呼(リーダー)
17:30	Red House Clarke Quay(夕食) 【チリクラブ】	・決められた席へ着席 ・飲み物は個人会計です。 ・夕食会場から徒歩でリパークルーズ乗り場へ
19:00	リパークルーズ	・乗船
20:30	チャンギ国際空港到着	・班ごと整列、点呼(リーダー)
	諸連絡・搭乗券配布 個人チェックイン	搭乗手続きの案内 ・手荷物は一つに(パスポート・搭乗券・しおり・貴重品、黒ペン等) ・機内持込 財布、スマートフォン、カメラ、モバイルバッテリー ・機内預け 刃物類、スプレー等液体物 ※預けた荷物は羽田空港で受取。 ・一人ずつチェックインカウンターへ移動し、搭乗手続き荷物預け 荷物預けが終わったら班ごとに整列し、点呼(リーダー)⇒全員揃って出国審査へ
	保安検査・出国審査	・金属類はカバン内に入れるか検査場のトレイに入れる ・出国審査通過後、班ごと整列し、点呼(リーダー)
	搭乗ゲート付近で一時解散	・空港内で買い物可能 ・両替のタイミング 場所の指示

水資源の活用を学ぶ!! マリナーバラージ

・シンガポールの水源①貯水池②再生水③マレーシアからの輸入④海水淡水化の4つ。シンガポール最大の貯水池『マリナーバラージ』で水資源の活用と持続的な環境への取組を知り、次世代産業の展開・ウォーターフロントの魅力発信に繋がります。

ウォーターフロントの魅力発信

Work Walk Water

次世代産業の展開

Work Water



研修旅行の総括を… シンガポールシティギャラリー

・小さな貿易港からスタートし、たった50年で世界屈指の先進的なメトロポリスへと成長を遂げた国は世界に他に例がありません。研修中に見聞した施設を巨大ジオラマで俯瞰。シンガポールの歴史や未来の都市計画を学び、苫小牧市都市再生につながる研修旅行最後の見学地にお楽しみ場所です。

人材育成・多文化共生

Work

次世代産業の展開

Work Water



B&Sプログラムで現地学生と一緒に今のシンガポールを学ぶ

- ・可能性無限大のプログラム。
- ・苫小牧市の将来を支える人材とシンガポールの学生との交流を実施。
- ・生徒4名に現地の学生1名がエスコートしてシンガポールの街中をグループ別散策
- ・英語と日本語を交えて案内出来る学生を選定するので英語の習熟度が違う中学生と高校生が一緒でも安心して参加いただけます。
- ・人材育成と多文化共生を実現する日本旅行お勧めプランです。

事前学習例

- ◆シンガポールの地理について調べる
- ◆シンガポールの生活文化について調べる
- ◆シンガポールの公共マナーについて調べる
- ◆現地の行動予定を立てる
- ◆トラブルへの対応策を考えておく
- ◆両替への費用を考えておく

事後学習例

- ◆体験を通して感じたことをレポート形式で発表する
- ◆体験前に立てた目標の結果を発表する
- ◆現地学生に手紙、電子メールを出す
- ◆日本との習慣の違いを考える
- ◆教員の違いを考える



同世代同士
の交流

人材育成・多文化共生

Work

ウォーターフロントの魅力発信

Work

Walk

Water

6.現地研修 – 報告(5日目)

研修5日目。シンガポール最大の貯水池マリーナバラーズで水の活用と貯水池を市民の憩いの場所として有効活用している事を学び。旅の総括研修先はシティ・ギャラリー。たった50年で世界有数の都市になったシンガポールの発展を様々な資料やジオラマで展示。目指す未来の展示が多く、常に見据えた街づくりを行ってきた事が発展を支えてきたと実感出来る施設で、現地で感じた事を視覚で理解出来た見学となりました。午後からは現地大学生と歩くB&Sプログラムを実施。大学生と協力して慣れない町を自分達だけで実際に歩いた事でたくさんの発見があったようです。シンガポール最後の食事にチリクラブを食べ、リバークルーズへ。ライトアップされたマリーナベイサンズ・マーライオン・シンガポールの夜景、圧巻の景色を船上から鑑賞し、帰国の為にチャンギ国際空港へ



▲マリーナバラーズ屋上



▲B&Sプログラム



▲シンガポールシティギャラリー



▲リバークルーズ



▲最後の夕食 チリクラブ



▲建国記念パレード

6.現地研修 - B&Sプログラム 1班

B&Sプログラム 日程表

	着時間	発時間	見学地	目的	見学科
シンガポールシティギャラリー		11:30			
↓	交通手段()		金額	S\$	
ホーカーセンター	11:40	12:40		昼食	S\$
↓	交通手段(自転車)		金額	S\$	
ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ	13:00	14:30		環境保全について学ぶ	8S\$
↓	交通手段(自転車)		金額	S\$	
シンガポール・フライヤー	14:50	16:30		空中遊覧	40S\$
↓	交通手段(自転車)		金額	S\$	
リバース バンジー				たのしむ♥	S\$
↓	交通手段(徒歩)		金額	S\$	
クラークキー					S\$
↓	交通手段(徒歩)		金額	S\$	
RED HOUSE SEAFOOD (クラークキー)	17:20				

住所：3C River Valley Road 01-02/03, The Cannery, シンガポール 179022



6.現地研修 - B&Sプログラム 2班

B&Sプログラム 日程表

	着時間	発時間	見学地	目的	見学料
シンガポールシティギャラリー		11:30			
↓	交通手段(徒歩)		金額	S\$	
コナン壁画	11:35	11:45			S\$
↓	交通手段(バス)		金額	S\$	
クラウド フォレスト	12:10	12:40		昼食 (マック) 自然と観光の融合	8S\$
↓	交通手段(徒歩)		金額	S\$	
ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ				近未来の植物園	S\$
			交通手段(徒歩)	金額	S\$
アートサイエンスミュージアム				アートとサイエンスの融合	S\$
↓	交通手段(MRT+徒歩)		金額	S\$	
ファウンテン・オブ・ウェルス					S\$
↓	交通手段(MRT)		金額	S\$	
RED HOUSE SEAFOOD (クラークキー)	17:20				

住所：3C River Valley Road 01-02/03, The Cannery, シンガポール 179022



6.現地研修 - B&Sプログラム 3班

B&Sプログラム 日程表

	着時間	発時間	見学地	目的	見学料
シンガポールシティギャラリー	/	11:30	/	/	/
↓		交通手段()		金額	S\$
マックスウェルフードセンター	11:35	12:25		昼食	10S\$
↓		交通手段(自転車)		金額	S\$
ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ	12:55	14:25	クラウドフォレスト スーパーツリー	苦小牧市の緑化政策の参考に する	67S\$
↓		交通手段(自転車)		金額	S\$
シンガポール・フライヤー	14:45	15:35	観覧車	世界三大観覧車の一つを 見て学ぶ	40S\$
↓		交通手段(自転車)		金額	S\$
リバースバンジー	15:50	16:20		シンガポールのアトラクシ ョンを見学	35S\$
↓		交通手段(徒歩)		金額	S\$
クラークキー	16:25	17:15		休憩・買い物	S\$
↓		交通手段(徒歩)		金額	S\$
RED HOUSE SEAFOOD (クラークキー)	17:20	/			

住所：3C River Valley Road 01-02/03, The Cannery, シンガポール 179022



6.現地研修 – 6日目

第6日目行程表【8月3日(日)】

時間	行程	注意事項
1:20	搭乗ゲート付近に集合	・トイレは済ませて集合
1:55	チャンギ国際空港出発 日本航空 JL038便 【機内食】	・搭乗後、座席を確認して着席 ・機内でのマナーを厳守 ・機内で「携帯品・別送品申告書」記入
9:50	羽田空港国際線 到着 入国審査 荷物受取 税関 循環バスで国内線ターミナルへ 国内線乗り継ぎカウンター	・機内の忘れ物の確認 ・入国審査 パスポートを持って一人ずつ受けます。 ・班ごとに整列。移動前に点呼(リーダー) ・荷物を受け取ってターンテーブル付近に集合 ・班でまとまって乗車 ・一人ずつチェックインカウンターへ移動し、搭乗手続き荷物預け 荷物預けが終わったら班ごとに整列し、点呼(リーダー)
10:50	羽田空港国内線 保安検査 搭乗ゲート付近で一時解散 搭乗ゲート集合	・到着後 班ごとに整列し、点呼(リーダー) ・金属類はカバン内に入れるか検査場の籠に入れる ・1人で行動せずに必ず2人以上で行動する事 昼食や軽食などの購入可 ・班ごとに整列し、点呼(リーダー) 機内・到着後の案内
11:20	羽田空港出発 日本航空 JL513便	・搭乗後、座席を確認して着席 ・機内でのマナーを厳守
13:00	新千歳空港 到着	・機内の忘れ物の確認して降りる事 ・ターンテーブルで荷物を受け取って班ごとに整列し、点呼(リーダー)
	新千歳空港到着ロビー・帰着式	・諸連絡後、解散

お疲れ様でした♪



6.現地研修 – 報告(6日目)

チャンギ国際空港で現地研修をサポートしてくれた現地ガイドのマーカスと名残惜しんでお別れし国際線で羽田空港へ。フライトが遅れた為、新千歳空港到着は予定便より遅くなりましたが帰着式を行って解散。

帰着式では疲れた様子がありながらも、6日間の成長を大いに感じる事が出来、自信に満ち溢れた様子でした。終わってみればあっという間の6日間でしたが、計り知れない価値があった6日間だったのではないかと思います。



▲チャンギ空港「JEWEL」見学



▲マーカスと集合写真



▲機内食



▲いよいよ帰国



▲新千歳空港帰着

7.事後研修 - 第1回事後研修

第1回事後研修【実施日：8月9日／会場：COCOTOMA】

- ① 現地研修の振り返り
- ② 研修レポート報告
- ③ 研修終了後の感想発表
- ④ 苫小牧市への提言グループワーク



▲研修レポート報告



▲提言発表に向けたグループワーク



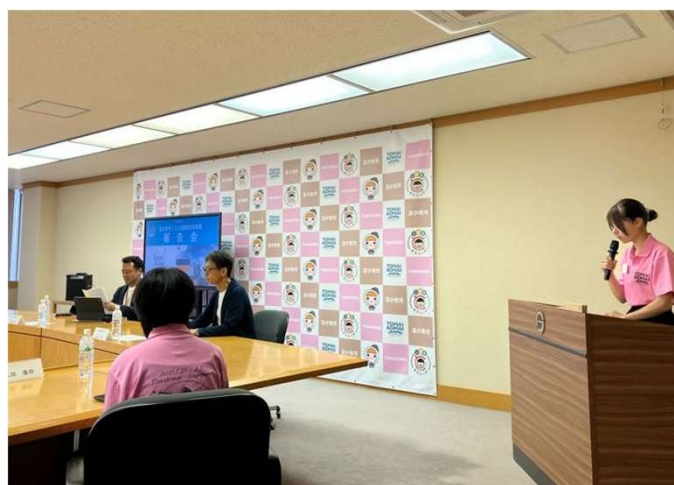
▲提言発表のテーマ発表



7.事後研修 - 第2回事後研修・市長への研修報告

第2回事後研修【実施日：8月23日／会場：苫小牧市役所 第2応接室】

- ① 参加者から金澤市長へ研修報告
- ② 第1回事後研修の振り返り
- ③ 苫小牧市への提言グループワーク
- ④ 今後の取組みについて

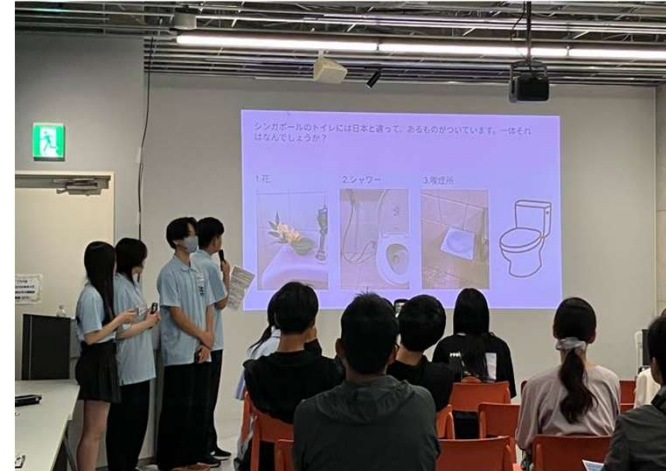


7.事後研修 - 市長への提言発表

第3回事後研修【実施日：10月5日／会場：COCOTOMA】

① 現地研修後の振り返り

② 金澤市長への提言発表会



8.参加者の活動報告書 - 目次

1.	「統合型リゾートの導入と魅力あるまちづくり」 藤女子高等学校 学年 3年 K.K
2.	「シンガポールから学ぶ苫小牧の街づくり」 北海道苫小牧東高等学校 3年 S.N
3.	「今回の研修で学んだこと」 北海道栄高等学校 3年 T.S
4.	「ゼロゴミと観光」 北海道苫小牧東高等学校 2年 W.E
5.	「ウォークアブルな緑化政策の進んだ、工夫の詰まった国」 北海道追分高等学校 2年 K.Y
6.	「シンガポールの「グリーンプラン2030」と SDGs推進に向けた苫小牧市への応用とは」 立命館慶祥高等学校 2年 W.K
7.	「シンガポールの多文化共生から学んだこと」 北海道登別明日中等教育学校 4回生 S.S
8.	「産業と環境が持続可能な都市デザイン」 苫小牧市立明倫中学校 3年 U.M
9.	「シンガポールの建造物に惹かれる理由」 苫小牧市立啓明中学校 3年 E.Y
10.	「多文化共生と水」 苫小牧市立ウトナイ中学校 3年 K.S
11.	「シンガポールから学んだこと」 苫小牧市立開成中学校 2年 T.H
12.	「環境と観光・街づくりを守るために ～苫小牧に生かす～」 苫小牧市立和光中学校 1年 H.W

「統合型リゾートの導入と

魅力あるまちづくり」

藤女子高等学校 3年 K.K

シンガポールでの研修を通じて、私は苫小牧市にも「統合型リゾート（IR）」のような施設が必要だと強く感じました。同時に、かつて苫小牧を離れた人々が「また戻ってきたい」と思えるような魅力の発信も、これからのまちづくりに欠かせないと実感しています。

統合型リゾートの導入によって、苫小牧には大きな経済効果と社会的・都市的な効果が期待されます。観光客の増加、特に富裕層のインバウンド消費によって地域経済が活性化し、雇用や税収の増加といった直接的なメリットが生まれます。加えて、リゾート施設の整備に伴う交通インフラや公共空間の改善が、街全体の魅力向上につながります。私が訪れたシンガポールのマリーナベイサンズやセントーサ島では、これまで見たことのない曲線美の建造物と美しい景色が広がっていました。シンガポールではIRが国のシンボルとなり、観光客から利益を得るだけでなく、その存在自体が魅力となっていることに感心しました。苫小牧にも同じような発展の可能性があると、現地を見て確信しました。



そこで私は、苫小牧市に特化したIRについて考えてみました。

単なるカジノや娯楽施設ではなく、苫小牧の海と森の自然、環境先進都市としての未来像、そして北海道グルメの魅力を融合させたサステナブルIRです。「海と森」をテーマに、館内には海中トンネルの水族館、屋上には森を再現したスカイガーデンを設け、水も緑も感じられる空間にします。そして再生可能エネルギーで電力の地産地消を実現することで、世界一環境に優しいリゾートを目指します。さらに「北海道フードストリート」を設け、ホッキ貝や海鮮、乳製品、ラーメン、クラフトビールなど道内各地の味を一度に堪能できるようにします。このようなIR施設ができれば、苫小牧を世界が訪れたい港町として発信できると考えました。



一方で、苫小牧市が直面している課題のひとつが若者の流出です。進学や就職を機に市外に出た若者が、地域とのつながりを失ってしまうのが現状です。だからこそ、「このまちにずっと住みたい」と思えるような環境づくりが必要です。苫小牧の強みは、海に面した豊かな自然環境です。たとえば、シンガポールの「ウイングス・オブ・タイム」のような水上ショーは夜にもかかわらずたくさんの人が集まっており、とても幻想的でした。このようなものを取り入れれば、市民の憩いの場になるだけでなく、観光資源としても新たな魅力を発信できると考えました。

もちろん、IRの導入や水上ショーなどの開催にはコストや人材、そして長期的な視野が必要ですが、今こそ苫小牧市には新たな挑戦と変化が求められていると思います。私自身、このまちの未来に関わる一人として、今後も提案と行動を続けていきたいです。

「シンガポールから学ぶ 苫小牧の街づくり」

北海道苫小牧東高等学校 3年 S.S

初めに、このような素晴らしい事業に参加させていただきありがとうございます。私は今回、「苫小牧に生かせるシンガポールの魅力的な街づくり」に注目し研修に参加しました。

シンガポールは、近代的な高層ビルと自然が調和しており、すごく経済発展が進んでいる都市だという印象を持ちました。そのようなシンガポールをつくる街づくりから学んだ、苫小牧で行いたい取り組みを2つ紹介します。

まず1つ目は、遊びと学びが融合した複合型施設を作ることです。シンガポールにはマリーナ・バラージという水資源の管理だけでなく、防災、観光、学び、遊びを一体化させた魅力的な複合型施設になっているダムがあります。私はこの施設に感動し、苫小牧にも同じような設を作りたいと考えるようになりました。

マリーナ・バラージは洪水を防ぐダム機能に加え、飲み水として使える水を貯める役割を果たしています。しかしそれだけでなく、建物の屋上は芝生の広場になっていて家族連れや観光客がピクニックをしたりしてくつろいでいました。また、周りにはランニングコースやサイクリングロードも整備されており、街や海の景観を楽しみながら運動ができる場となっていました。さらに、館内には水と環境について学べる展示があり、校の見学先にもぴったりの場所だと感じました。

苫小牧は海や川、自然が豊かで港もあり、水との関わりが強い街です。その強みを生かした施設を作ることができれば、観光の魅力アップや地域活性化に繋がると考えます。

2つ目は、プロジェクターを利用して今ある資源を最大限に魅力的なものにすることです。シンガポールではプロジェクターや映像を上手く使っている場所がとても多かったことも印象的でした。博物館や展示施設ではただ展示を見るだけでなく、映像や光、音を使った演出によってもっと分かりやすく楽しく学べるようになっていました。

このような技術は、苫小牧の施設に生かされると強く感じました。例えば博物館でアイヌ文化や開拓の歴史を生かしたプロジェクションマッピングや映像で立体的に紹介したり、科学館で映像を使った遊べるコーナーを増やしたり、プラネタリウムに星空だけでなく苫小牧の自然やアイヌ文化などをテーマにしたオリジナルプログラムを作ることによって学校や地域団体と連帯し、学習のイベントの場として活用できると感じました。

また苫小牧の海を活かして、「Wings of Time」のような水面や噴水に映像を映し出す水上ショーを行うことができれば、先程述べた複合型施設や、宿泊施設と組み合わせた更なる経済効果が期待できます。

最後になりますが、この事業に参加して、素晴らしい仲間に出会い多くの学びと気づきを得ることが出来ました。この経験を苫小牧市の発展はもちろん、自分の成長にも繋げていきたいです。



「今回の研修で学んだこと」

北海道栄高等学校 3年 T.S

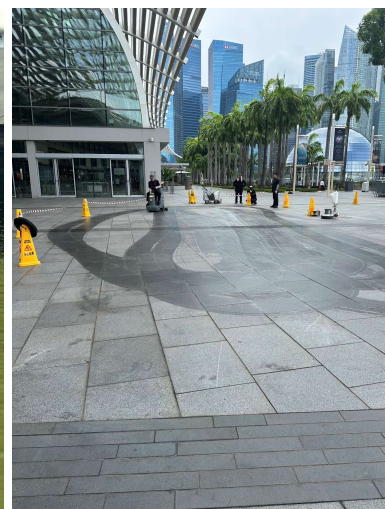
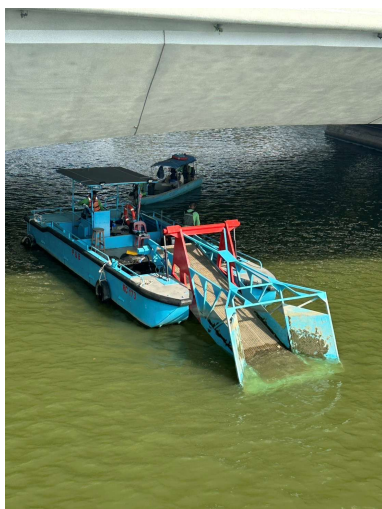
自分で実際に現地に行って苫小牧市の現状を考えたうえでどこを生かすことができるか。

自分的にはウォーターフロントと町の清潔さは取り入れやすい部分かなと思いました。具体的にどんな風にしていくかという、ウォーターフロントは町のシンボルである何かを利用し、(シンガポールだとマーライオン、苫小牧市だとシマエナガ、ホッキ、ハスカップなど)「訪れたい」と思わせることが重要だと考えました。そのためには駅周辺など人が集まりやすい場所に作るのがいいと思いました。写真映えのあるものやストーリー性のあるものをうまく活用するのが良いと思います。

また苫小牧市には夜のイベントがないので、そこもシンガポールをうまく真似しながらやればよいと思いました。シンガポールだとウイングオブタイムといった海を利用したショーがありました。苫小牧市でやるとするならば、きらきら公園や港周辺を利用して月1で地元飲食店やクラフト作家が出店するナイトマーケット・音楽ライブをやってみたりなどしても面白いと思います。



町の清潔さについてはシンガポールみたいに罰金制度を作ったり監視カメラをたくさん設置したりガムの持ち込み禁止などはお金もかかるし、今すぐには実行することはできないです。じゃあどうするかというと、1番楽でお金もかからないのは一人ひとりの意識を変えることです。どう意識を変えるかというと、小中学校でよくやる交通安全教室やスマホ教室のようにゴミのことについてもっと学ぶ時間を作るべきだと思います。今はわからないですが、自分が小学生・中学生の時はゴミのことについて詳しく学んだことがなく、苫小牧市が053対策をやっていることぐらいしか知りませんでした。もっともっと小さいときからゴミのことについて触れていれば、一人ひとりの意識も今よりは違ったのかなと思います。また、ゴミ箱の数を増やすというのもいいと思いました。シンガポールはいろいろな場所にゴミ箱が設置されていました。少しコストはかかってしまいますが、監視カメラよりはかからないです。



自分の考えは以上です。ご清聴ありがとうございました。

「ゼロゴミと観光」

北海道苫小牧東高校

2 学年 W.E

私は、今回の研修でゼロゴミと観光をテーマに学んできました。

まず、ゼロゴミについてです。私がシンガポールについてから最初に驚いたのは、街中に落ちているゴミの少なさです。世界一きれいな街といわれていたり、ポイ捨てに関して罰金などの条例があったりすることは事前に調べ、知っていましたが、ここまできれいだとは思っていませんでした。ゼロとはいえないものの、苫小牧と比べてみると、圧倒的な差がありました。苫小牧の街中を歩いていると、タバコの吸い殻やペットボトル、ビニール袋、お菓子のゴミなど

様々なゴミを目にします。もちろん、街中か住宅街かなどの場所によってもゴミの数は違いますが、それでも圧倒的にシンガポールはポイ捨てされているゴミの数が少なかったです。なぜ、こんなにも発展している街なのにゴミが少ないのかと考えながら、研修をしていると、街中にあるゴミ箱の多さに気づきました。街を歩けば、少し歩けばまたゴミ箱があるというように、とにかくたくさんゴミ箱がありました。そして、そのどれもが誰が見てもわかりやすく、分別ができるようなデザインとなっていました。シンガポールのポイ捨てが少ないのは、罰金制度があるからということも確かに一つの理由ではあると思いますが、ゴミ箱の多さ、そしてそのわかりやすさも理由の一つになっていることは間違いないとおもいます。



これはシンガポールの良い点ですが、シンガポールでは分別後すべて一緒に燃やしていて、リサイクルはされていません。それに比べ、苫小牧ではリサイクルが徹底されているのでこの点ではシンガポールを上回ると思います。シンガポールでは、わかりやすいゴミ箱デザインの他にも多言語が重視されていました。ナイトサファリのトラム、街中の看板、様々なものが多言語になっていました。私は、苫小牧市のゴミ箱の数を大幅に増やし、そのデザインを誰もが分別できるようなわかりやすいものにし、なおかつ、ポイ捨ての看板などを多言語にするべきだと思います。

次に、観光についてです。シンガポールに来て圧倒されたのは大きさです。シンガポールはすべてが壮大で苫小牧市との圧倒的なスケールの違いが感じられました。チャンギ空港にある大きな滝、マーライオン、ギネス世界記録にも認定されている世界一大きな噴水のファウンテンオブウエルズ、クラウドフォレスト、フラワードーム、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ、ウイングスオブタイム、ナイトサファリ、すべてが本当に大きく誰もが息をのむようなものばかりでした。また、シンガポールではウォーターフロントを活かした水、光、音楽の融合が多くありました。



海のある苫小牧でも、ウイングスオブタイムのようなショーの実現は十分可能だと思うので、やるべきだと思います。また、マーライオンやクラウドフォレスト、ファウンテンオブウエルズは壮大で視覚的にも素晴らしいものでありながら、水しぶきを感じられるなどの暑いシンガポールならではの避暑地的役割も果たしているのだと実感しました。近年、苫小牧も暑くなってきているので、観光と避暑地の両方の役割を兼ね備えた大きな噴水をつくるのが良いのではないかと思います。

以上の2点について、私は学ぶことができました。今回の研修では、11人の素晴らしい仲間ができ、苫小牧市をよりよくするための大きなヒントも得ることができました。このような機会を与えてくださったすべての方々への感謝の気持ちを忘れず、苫小牧市の未来に還元していきたいと思います。また、今回の研修で培った物事をみるスケールの大きい視野を将来に活かしていきたいと思います。

「ウォーカブルな緑化政策の進んだ、工夫の詰まった国」

北海道追分高等学校 2年 K.Y

私が今回シンガポールへと行って見て一番に思った事は進んだ緑化政策によって街の至る所に生い茂る植物に、街の隅々まで掃除されているかの様なゴミ一つ落ちていない道が印象的な、視覚的にも足元的にも歩きやすく、こんな綺麗な国があるのかと感動しました。

シンガポールはマレーシアから独立して今年でちょうど60年。そんな60年という間で飛躍的な高度経済成長期を遂げた要因にあると思われるのは、水資源の活用方法、緑化政策、再生可能エネルギー産業の展開の3つであり、これらの3つは苫小牧市でも非常に参考にできるものだと思います。

1つ目の水資源の活用方法は主にウォーターフロント、ウォーターアクティビティなどの人目に付きやすく、人々が触れやすい水資源の活用をすると良いのではないかと考えます。『イーストコーストパーク』はシンガポール最大のウォーターフロント空間で緑化政策の進んだ植物や、整備の行き届いた自転車道、遊歩道、海辺に並んだテラス付きの飲食店では観光客はもちろん、市民の方もが船の行き交う広大な青い景観を楽しむことができます。そして夜にはセントーサ島では毎夜『ウィングスオブタイム』というプロジェクトマップと水を組み合わせて作られている水上ショーが開催されており、私達が行った日もたくさんの方がそのショーに魅了されていました。イーストコーストパークやウィングスオブタイムなど、他にも街中を見ていて思ったのは苫小牧市では水に触れるという機会が少ないと感じたことです。シンガポールでは街中、建物の中にも水資源が使われていて人と水資源の距離がとても近かったのです。なので、初からウィングスオブタイムのようなショーは難しいと思うのですが、少しずつ、苫小牧市民の人が水と触れ合える機会、最初は小さく水遊びのできる場所などを増やすとかすると人々が自ずと水に関わる機会が増え、ウォーターフロントやウォーターアクティビティなどにも目が向けられてますます水資源の活用、活性化が見られるのではないだろうかと思いました。

次に緑化政策についてです。苫小牧市は流石工業の街というべきなのか工場やビルが街中にも多いです。そのせいもあるのか近年の夏は猛暑が続き、人々はエアコンに染め上げられる生活を送っています。ですが、シンガポールでは人々が積極的に出歩き、常に人が絶えません。なぜだろうと街を観察して調べたところ、それは緑化政策のおかげなのだと思いました。植物が街に増えるとヒートアイランド化を防ぎ、二酸化炭素を植物が取り込んでくれるおかげで、綺麗な酸素が街に送り出される。そして街の景観に緑が溢れ、視覚的にも歩きたくなる街ができると思いました。もちろん、緑化政策にも維持費などのコストが掛かります。ですが、市民参加型、学校や企業単位でも参加可能なボランティア制度にしたり、『低メンテナンス種』という耐寒性、対処性に優れ、手入れも楽な植物を植えることや、緑化政策自体をフェス、お祭りのようにして楽しく継続させるなど、コスト削減+ボランティアにするとお祭りによる苫小牧市の活性化にも繋がると思います。

最後に、再生可能エネルギー産業の展開についてです。シンガポールという国は資源に貧しく、土地が限られている為、必然的に輸入に依存してしまうという現状を打破したい！という試み、それが再生可能エネルギー産業です。シンガポールの高いビルの屋上などに太陽光パネルを置いて発電する太陽光発電、廃棄物、ゴミを燃やし発電するというゴミの処理と同時に発電できる廃棄物発電を行っています。とくに廃棄物発電は苫小牧市のしっかりとされたゴミの分別状況からみてもとても実践しやすい発電方法であり、苫小牧市が他に行っている太陽光発電や風力発電と組み合わせると省エネ化が進み、持続可能なエネルギーシステムを確立できると思います。

今回のシンガポールへの研修はとてもいい経験になったし、私の書いたこと以上にもっと苫小牧市に活かせる事のある大変学びのある研修でした。改めてこの研修に参加させて頂き、ありがとうございました。

「シンガポールの「グリーンプラン2030」とSDGs推進に向けた苫小牧市への応用とは」

立命館慶祥高等学校 2年 W.K

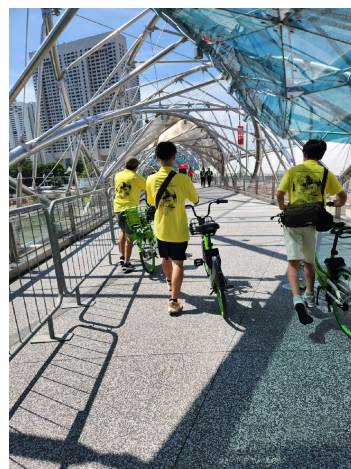


僕は研修で特にSDGs達成に向けた取り組みの1つでもある「グリーンプラン2030」について学びました。この目標では、都市の緑化、再生可能エネルギーの導入、公共交通機関の利用促進などが含まれています。今回は、上記の3つの観点から調べた内容を報告書とします。

1つ目が都市緑化についてです。なぜ都市部でも緑が多いのか。その答えの1つに独自の都市設計があります。その設計ではまず初めに公園や植物園などの設計をし、その後都市のデザインをしています。都市計画として緑を増やしていくことはすでに都市が形成されている苫小牧では難しいです。しかし、現在進められている苫小牧駅周辺の再生コンセプトプランに取り入れることで実現可能になると考えます。次に、僕が実際に見た都市と緑の融合について話します。シンガポールではビルやマンションがとて多い特徴を活かし、屋上やベランダ、壁を利用することで緑を増やしています。これを苫小牧でも活かし、屋上で庭園のような緑化をすること

で、働く人などが休んだり、集まって話せるような憩いの場にも繋がります。シンガポールでは少しでも多く緑を作ろうという意識や取り組みが結果的に都市全体の緑の多さにも繋がっていると思います。緑を増やしていくことは直接的にCO2削減につながるため、地球温暖化の防止にも有効な取り組みです。まずは市が率先して取り組み、市民一人ひとりの意識を変えることで、緑あふれる都市づくりが実現できると考えます。

2つ目が公共交通機関の利用促進についてです。シンガポールでは自家用車の利用を抑制し、公共交通や徒歩、自転車の利用を促す「カーライト (Car-lite)」という政策があります。都市の中には高架橋や地下通路が多く設置されており、そのデザイン性も高く、歩いていて楽しい環境が整っているのも公共交通機関の利用促進に繋がっていると考えます。苫小牧市においても、主要道路を横断できる高架橋の設置やデザイン性の向上は、ウォーカブルなまちを実現する上で欠かせないことだと実感しました。また、歩く以外にもレンタル自転車を利用できる環境が整っていたのも魅力的でした。歩くことで時間がかかってしまう欠点をカバーできる手段として自転車は有効です。今の苫小牧では明確化された駐輪場が少ない、自転車盗難が多いなどの問題点が多くあります。しかし、シンガポールのレンタル自転車は、アプリで駐輪場の場所を簡単に確認でき、駐輪場も1つ1つの距離が近い場所に設置されており、駐輪場のQRコードを読み取ることで返却が完了する仕組みのため、盗難の心配もありません。さらにレンタル自転車は自宅からだけでなく、公共交通機関で移動した先でも利用できるため、公共交通の利用促進にもつながります。これらの理由から、苫小牧市でもレンタル自転車の導入を検討すべきだと考えます。



3つ目が再生可能エネルギーの導入についてです。シンガポールでは特に太陽エネルギーを活用した太陽光発電が盛んです。僕が見た中で一番印象的だったのがスーパーツリーです。観光資源となっている側面、高さや表面積を活かし太陽光発電を行っていました。また、シンガポールでは海や貯水池を活かした浮体式の太陽光発電を行っており、ウォーターフロントのまちだからこそできる発電方法も知ることができました。苫小牧の中心部の商業施設やビルの屋根、海を利用するなど膨大な面積の森林伐採などによる環境破壊を防ぎ、自然を守ることができると考えます。



このように、シンガポールでは「グリーンプラン2030」を軸に、都市緑化、公共交通機関の利用促進、再生可能エネルギーの導入といった様々な取り組みが行われています。これらの取り組みを苫小牧市に応用することで、SDGsの達成に向けた取り組みとなると同時に、持続可能で魅力あるまちづくりの実現にもつながると考えます。

「シンガポールの多文化共生から 学んだこと」

登別明日中等教育学校 4回生 S.S

苫小牧市は、北海道の港湾都市および工業都市として、ものづくり産業や物流業を中心に発展してきました。近年、外国人住民が増加し、特にベトナムやインドネシアなど東南アジア出身の方々が地域社会に新たな活力をもたらしています。しかし、言語の壁や文化の違いによる誤解や偏見が課題となり、日本全体でも多文化共生に向けた意識改革や施策が求められています。

このたびのシンガポール研修は、多文化共生の先進例を学ぶ貴重な機会でした。シンガポールは、中華系、マレー系、インド系など多様な民族が共存する国家として知られ、その仕組みに深く感銘を受けました。たとえば、公共住宅政策では、異なる民族がバランスよく居住するよう設計されており、日常の交流を通じて相互理解が促進されています。また、学校では英語、マレー語、中国語、タミル語などを学ぶ多言語教育が実施され、子どもたちが幼少期から多様な文化や言語に触れることで、幼少期から多様な文化や言語に触れることで偏見や差別のない共生社会が実現しています。特に印象的だったのは、ホーカーセンターでの経験です。B&Sプログラムの際、ホーカーセンターで食事を注文しようとした時、言語の壁で上手く意思疎通ができず戸惑いました。しかし、屋台のおばさんが笑顔でジェスチャーを交えながら小銭の使い方やメニューを丁寧に教えてくれました。その温かさに心を動かされ、言葉が通じなくても互いを尊重する姿勢の大切さを学びました。この経験から日本で暮らす外国人技能実習生や留学生の方達が見知らぬ土地で生活することの大変さ身をもって理解しました。また、華僑出身の現地ガイド、マーカスさんとの出会いも忘れられません。彼は中国語、マレー語、日本語を流暢に話す、まさに多文化共生を象徴しているような存在でした。マーカスさんの温かな人柄や明るくユーモアのあるガイドのおかげで安心して研修に臨むことができました。

この研修の学びを苫小牧市に活かすには、具体的な施策が必要です。まず、学校教育において外国語や異文化理解を重視した授業を充実させ、子どもたちが早い段階から多様性の価値を学べる環境を整備することが必要です。次に、外国人住民向けの生活支援サービスを充実させることで、地域社会への参加を促進する環境を提供することが重要です。さらに、職場では多言語対応や日本語・日本文化に関する研修を導入し、外国人住民が安心して働ける環境を整備することが欠かせません。これらの取り組みを官民一体で推進し、外国人住民が暮らしやすく働きやすい地域社会を実現することを目指すべきです。

シンガポールでの経験、特にホーカーセンターのおばさんの優しさやマーカスさんとの交流は、異なる文化を受け入れ、互いに尊重し合うことの価値を教えてくださいました。苫小牧市がシンガポールの事例に学び、差別や偏見のない、外国人住民と日本人住民が共に活気ある地域社会を築くことを願います。そのために、この研修から学んだことを胸に刻み、苫小牧市の国際化と多文化共生社会の実現に向けて、一歩ずつ行動を起こしていきたいです。



「産業と環境が持続可能な都市デザイン」

苫小牧市立明倫中学校 3年 U.M

① 目的

私は、文化が共存し人を惹きつける公共空間に施されている工夫を、デザインという切り口から探るためにシンガポールを訪問した。このレポートでは、その視察で得た知見を通して苫小牧市に活かせる点を考察する。

② 視察内容

研修では複合施設や動植物園、寺院など幅広い分野の施設を見学した。ここでは、その中で「マリーナベイ・サンズ」、「クラーク・キー」、「マリーナ・バレージ」に焦点を当て、それぞれの特徴や再生都市に果たしている役割について述べていく。

マリーナベイ・サンズはシンガポールの視覚的ランドマークともいえる複合施設で、公共施設、緑地、商業の要素を兼ね備えている「総合型リゾート(IR)」だ。建物はガラスを多用していて、屋内でも開放感があり、曲線を巧みに使ったデザインが多く見られた。施設内には筒の中心に渦潮噴水「レイン・オキュルス」を据えた空間があった。シンガポール・チャンギ国際空港内の複合施設「ジュエル」にある屋内滝「レイン・ボルテックス」にも同様の構造が採用されている。どちらの場所にも多くの人が集まっており買い物の合間の休憩場所としても機能していた。

次に、クラーク・キーだ。ここは倉庫跡地を複合レジャーエリアへと再開発した場所だ。レストランやバーは深夜まで営業しており、夜も賑わっている。歩行者中心のエリアとして設計されていて、ウォークブルな街づくりの成功例だ。様々な機能が集約しており、コンパクトシティの要素も兼ね備えている。昼と夜とで全く違う表情を見せ、訪問者を魅了している。

最後に、マリーナ・バレージを取り上げる。この施設は淡水の供給だけではなく、洪水防止や観光地としての役割も担っている。建物の一階は通り抜けられる設計で、自転車を利用したりランニングを楽しむ人々が見受けられた。屋上は芝生になっていて景観が良く、レクリエーションスポットとしても使用される。施設自体が市民の通行場所や休憩場所になっていたことには驚嘆した。公共インフラを単なる構造物ではなく、人が集まれる空間として設計していて苫小牧市の都市再生の参考になった。



③ 考察

まず、マリーナベイ・サンズにあるレイン・オキュルスを囲む筒状の空間設計について考察する。このような垂直に開いた空間は周囲に囲まれた安心感と開放感を同時に提供し、集中力高めたり、神聖な印象を与える心理的効果があるとされている。そこに人が自然と集まっていたのはこうした空間の持つ効果によるものかもしれない。

続いて、クラーク・キーの特徴から読み取れることを述べる。再開発による景観保存、ナイトタイムエコノミー²による経済の活性化、水辺沿いに賑わいを形成するというものは苫小牧市の目指す都市像に似ている。もし苫小牧市にクラーク・キーのような複合レジャーエリアを設けるのなら、クラーク・キーのように観光に特化することも重要だが、市民が日常的に利用できるよう、価格設定や歴史的・文化的雰囲気への配慮も欠かせない。

多文化的共生や次世代産業の展開のための施設を建設する際は、マリーナ・バレージのように都市学習施設や公共インフラを暮らしに開くことで都市の価値を高めることができるといえるだろう。インフラに人の居場所を重ねるといった視点で都市再生を進めることで、機能的な都市の実現に近づくのではないかと考える。

④ 結論

シンガポールは持続可能なデザインや多機能化、景観保全など様々な観点に配慮しながら都市開発を進めている。その結果、今では「アジアの未来都市」や「赤道直下の宝石」などと呼ばれている。こうした取り組みが都市の一体感を高め、住民の多文化共生への理解を深めている。このような一体感と共生の関係は都市として非常に望ましい姿である。

苫小牧市ではシンガポールをはじめとする都市に施されているデザインを参考にしつつ、現在の苫小牧市の風景(工場・樽前山等)を活用したり、北海道の豊かな自然を残すことを念頭においた都市再生をするべきだ。そうすることで、産業と環境が共生する持続可能な都市の実現が可能になると考える。

脚注

1. 大規模リゾート。苫小牧市も誘致に向けた取り組みをしている。
2. 夜間の経済活動。観光振興や地域活性化の手段として注目されている。

「シンガポールの建造物に惹かれる理由」

苫小牧市立啓明中学校 3年 E.Y

僕が初めてシンガポールの建造物を見たときに、苫小牧市では見られない建造物で圧倒されました。おそらく観光客など訪れる人々がこの建造物に惹かれる理由は、独自性と自然との調和にあると思います。シンガポールは都市国家として狭い限られた土地を最大限に活用し、画期的で機能的な建築を生み出していると聞いていましたが、実際に見ることでそれを実感し、感動することができました。



例えば、シンガポールの象徴的なマリーナ・ベイ・サンズは出発前にインターネット上で見てはいましたが、実際に目の前で見ると本当に圧巻でした。3つの高層ビルの上に船のような建造物を乗せた壮大で独特なデザインで、世界中の観光客を引きつけないわけがありません。その一方で、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイのようにデザインの素晴らしさはもちろん、自然との融合した建物も多くあり、スーパーツリーをつなぐブリッジを歩く体験はとても気持ちがよく、自然の木々と建造物の何とも言えない組み合わせの景色が魅力的でした。また雨水貯水装置などの装備の技術にも驚きました。解説が英語だったので、もっと英語を勉強しておきたかったと思いましたが、現地に行けて様々な工夫が見られて良かったです。ライトアップをインターネットで見るときれいだったので、いつかまた訪れたいと思いました。

さらに、多文化共生社会であるシンガポールはチャイナタウンやリトルインディアなど文化的背景が関わった建物、寺院も多くありました。それぞれ匂いや町の人々の雰囲気も全く違い、驚きました。伝統と未来が調和して美しさが引き出されているとても珍しい国だと聞いていたとおり、町を歩くだけで多様な歴史や文化を感じる事ができる良い空間でした。



このように、シンガポールの建造物は単なる建造物にとどまらず国の価値観やこれからのあり方、そして自然や文化への配慮を体現しています。そのようなところに人々は魅了され惹かれるのだと僕は思いました。

これらをそのまま苫小牧に取り入れることは難しい面がたくさんあるとは思いますが、でも見る人を魅了するための工夫などは苫小牧にも取り入れられると思うので、現地で感じることでできた貴重な経験をもとに、事後研修を通して具体的にできることを考えていきたいです。

最後に、僕にとって初めての海外経験は視野を広げてくれるものとなりました。これからも海外に目を向けながら、自分が生まれ育った苫小牧はもちろん日本についても知り、誇りをもてたらいいなと思いました。

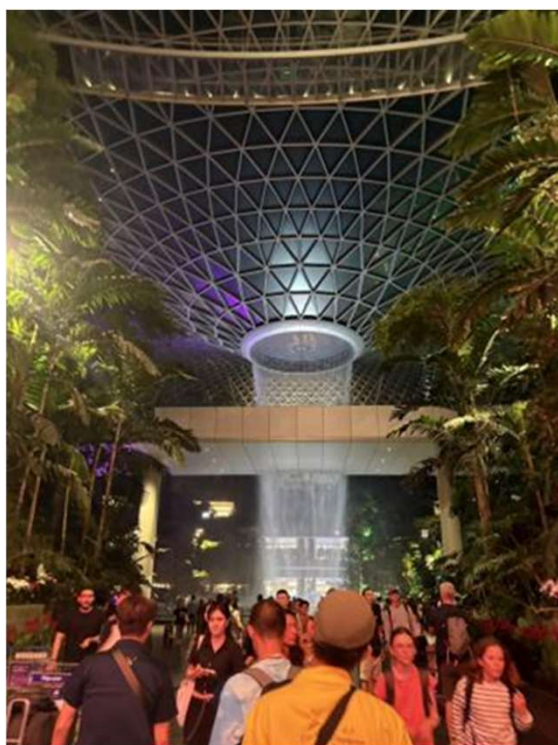
「多文化共生と水」

苫小牧市立ウトナイ中学校 3年 K.S

今回のシンガポール研修で、特に印象に残ったのは多文化共生と水の使い方についての取り組みです。シンガポールは中国系、マレー系、インド系など多様な民族が共に暮らす社会であり、言語や宗教、文化の違いを尊重し合うことで調和を保っています。学校や公共施設では多言語が使われ、多文化を理解し受け入れる教育が行われていることに感銘を受けました。この多文化共生の考え方は、多様な人々が共に暮らす日本や苫小牧でも大切にすべきだと感じました。



また、水資源が限られたシンガポールでは、雨水の貯留や下水の再生利用、海水淡水化など多様な方法で水の確保を行っています。特に、マリーナ・バレーでは洪水防止の役割も果たしながら、市民が利用できる憩いの場としても機能している点に感心しました。



そしてシンガポールの水の使い方はインテリアやイベントなどにもつかっていてマリーナベイサンズでは中に川みたいな装飾があったことに驚きました

苫小牧は自然に恵まれ海や山に囲まれています。都市としての持続可能性や多文化共生の視点がこれからますます重要になると思います。シンガポールのように多様な文化を尊重し合う社会づくりを進めると同時に、限りある資源である水を大切に使い、再生利用などの環境技術を取り入れていくことが苫小牧の発展にもつながると感じました。

この研修を通じて学んだことを活かし、多文化共生と環境保全の両立を目指していきたいと思っています。

「シンガポールから学んだこと」

苫小牧市立開成中学校 2年 T.H

私はシンガポールでワーク、ウォーク、ウォーターの3つのWを通して多くのことを学ぶことができました。

第一のワークでは泊まっていたホテルの従業員の多様性に驚きました。

ロビーでは中国系、マレー系、インド系など様々なルーツを持つ人々が笑顔で生き活きと仕事に従事していました。

苫小牧市では出会うことの少ない多民族が共生する姿を目の当たりにし、ホテルという空間にいてもシンガポールの多様な文化や社会のあり方を強く感じるようになりました。まさに多民族共生の国家だと感じました。例えば苫小牧も交換留学を行い、これからの未来を創造する若者が多様な文化に触れることでもっと多文化共生を身近に感じられると思いました。

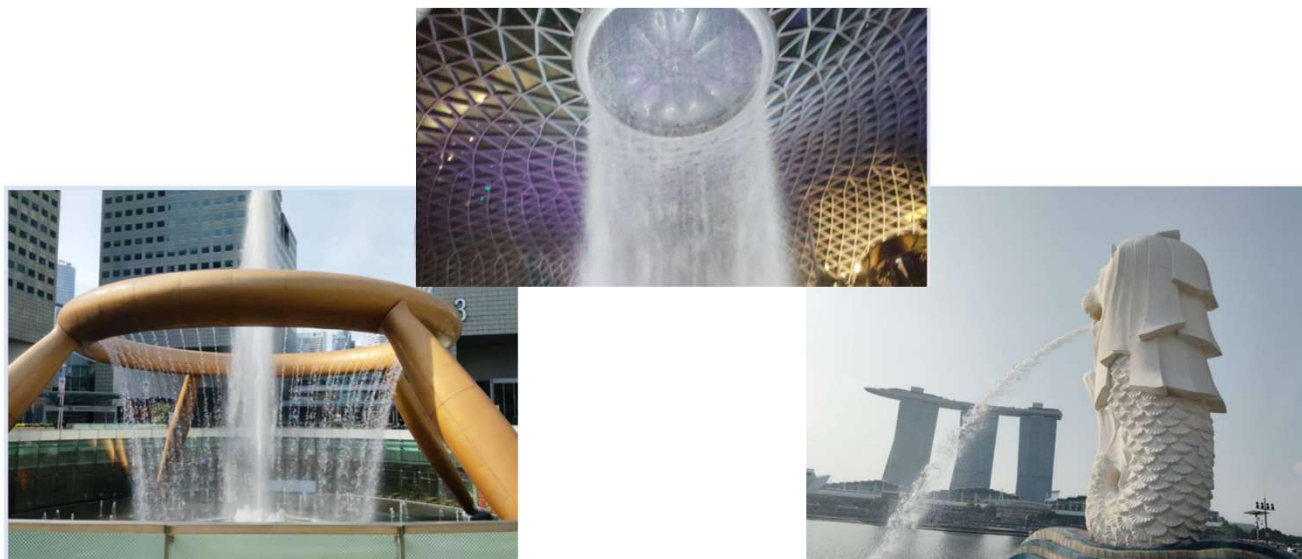
次にウォーク。マーライオンパークでは平日にも関わらず多くの人達が集っていました。公園内の歩道はたくさんの観光客や地元の人がいるにもかかわらず、広く感じられる歩道でした。また、ごみ箱も多くごみを見る機会がほとんどありませんでした。苫小牧もごみ箱を増やすことで053の街により近づくとします。誰もが楽しい気分で歩けるような工夫が施されていること、維持し続けていることにとっても清潔感を漂わせているように感じた一つでもありました。また信号では、赤に切り替わるまでのカウントダウンが表示されているため、スムーズな歩行が困難な方にも優しさのある信号だと思いました。

最後はウォーター。シンガポールはいたるところに水を景色の一環にされていました。チャンギ国際空港の巨大な滝、世界一巨大な噴水であるフォンテンオブウェルス。私の中で最も印象的だったのはマーライオンの口から溢れ出てくる水しぶきです。身体に浴びる瞬間は、言葉で簡単に言い表せられないほど心地良かったです。苫小牧も水を感じられる新たな場を設けたら、多くの人々が集うより活気ある街になっていくとシンガポールを通して学びました。

最後に、私はこの研修で出会った11人の仲間に感謝します。

最高に楽しく学び、限られた時間で中身の濃い6日間を最後まで笑顔で過ごすことができたからです。

また、このチャンスを与えてくださった金沢市長をはじめ、市役所の皆様、添乗員の皆様、現地でお世話になった皆様、本当にありがとうございました。まだまだ未熟な私ですが苫小牧の未来に生かせるよう頑張ります。



「環境と観光・街づくりを守るために

～苦小牧に生かす～」

苦小牧市立和光中学校 1年 H.W

楽しい5泊6日でシンガポールに行きました。実際に見て感じたことや、そこから思いついたアイデアを紹介します。

1. ちょっとした隙間にも自然を

シンガポールでは、ビルの間やのすき間、建物の中など、いろいろな場所に木や草の緑がありました。私たちがまったホテルにもツルのような植物が垂れていて、自然をととても大切にしているのが伝わってきました。苦小牧は工場のイメージが強いですが、街の中にも木や花を増やすことで、自然と共に暮らせる明るい町になると思いました。

2. 水の利用と洪水対策

最近地球温暖化の影響で、大雨や台風が強くなり、洪水も増えています。シンガポールの「マリーナバレー」は、洪水をぎながら観光にも使われていて、とても良い工夫だと思いました。そこから、苦小牧でも生かせるアイデアを考えました。



マリーナバレーで洪水防止の説明を受ける↑

(1) SDGsの視点から

SDGsの14番「海の豊かさを守ろう」や15番「陸の豊かさを守ろう」に関係していると思います。市内で出たゴミをリサイクルし、そのお金で洪水対策や水の再利用に使えたら、街も自然も守れると思いました。

(2) 町を守るための設備

今年の北海道はとても暑く、大雨も増えると思います。だから、シンガポールのように「クレストゲート（洪水防止ゲート）」を苦小牧にも作れたら良いと思いました。リサイクルのお金を使えば環境にもやさしく、続けやすいと思います。



スーパーツリーの外側も緑で覆(おお)われている↑

(3) 雨水の再利用

雨水をトイレや植物への水やりに使えば、水道代も減らせるし、下水処理のも軽くなります。SDGsの6番「安全な水とトイレを世界中に」にもつながります。

今回の研修で、シンガポールやマレーシアの工夫を実際に見て、多くのことを学びました。小さな工夫が自然や町を守ることに繋がっているとしました。この学びを、苦小牧の未来に生かしていきたいです。本当にありがとうございました。

Tomakomai × Singapore



とま子ヨツア © 2011 志小牧市